赤坂社長出席 特別経営協議会
「全社員の雇用を守り 賃金を確保する」

WING
日本航空ユニオン宣伝ニュース
No 489 （11－13）
2020年 05月 25日

Tel:03-5756-8690 URL http://www.jlu.co.jp e-mail honbu@jlu.co.jp

５月 21 日、４労組(日本航空ユニオン、日本航空乗員組合、日本航空キャビンクルーユニオン、JALFIO)合同で直近の経営状況を伝える特別経営協議会が行われました。会社側は赤坂社長、菊山専務、各本部長が出席。通常の経協よりも会社も組合も人数を絞り、本社 14 階の広い会議室で間隔を空けて対面で開催されました。

赤坂社長からの状況説明は会社が発行するマネナウで、組合からの要望と質疑内容は今後発行される日航労連ニュースを参照してください。ここでは、グループ社員全体に関わることと、日本航空ユニオン(JLU)の質疑を紹介します。

■ 夏のボーナスはどうなる？雇用調整助成金を使わないのはどうして？

赤坂社長 ‥‥直近の話として夏のボーナスがある。近づいてきている。元々何事もなければ、余程のことがなければ最低でも２ヵ月、年間４ヵ月と言ってきた。これを安定的にと言ってきた。残念ながら余程のこと、それ以上のことが起きている。我々としても何とか４ヵ月をキープしたいと思っているけども、外部に色んな資金調達、着陸料の免除とかをお願いしている状況なので２ヵ月を割り込まざるを得ないと今は思っている。正式には６月上旬に組合にお伝えしたい。

JLFIO 競合他社は賃金水準を維持しながら、雇用調整助成金を使って一時帰休を実施している。同様の対応を取ることで会社の負担が軽減ができるのは？という声がある。今実施していない会社の考え方、背景を教えていただきたい。

赤坂社長 一時帰休は現時点ではやるつもりはない。これは考え方で、一時帰休は会社として「仕事がないから給料払えない」ということを宣言すること。一方で、雇用調整助成金は、それではかわいそうだから援助するということ。会社としては仕事がないから払わないじゃなくて、まだまだやれることがあって、テレワーク・在宅勤務であっても重要な訓練・教育を仕事としてやっていただきたい。そういう意味で、「仕事がない」「払えない」ではないからしっかりやってほしい。なかなかこういう機会はない。ぜひ大事に普段できないことをやってほしい。私が現場にいるときも、こういう機会があればいいなと思っていた。マニュアルの目的や意味を考えたりする。これを暇つぶしではなく、仕事として。でも、長くなるとこれで済むのかという話になる。助成金、国の支援はありがたいことだけど、所詮税金。我々の血税。そういう認識をしないといけない。そうでない状況だったら、次に必ず役に立つこと、これをしっかりやるべきだ。私はそう思う。経営の中でもいろいろあって、必ずしも正しくないかもしれないが今はそう思う。将来に渡って絶対にないとは言い切れない。そうなった場合は「社長も切羽詰まったな」と思っていい。

■ 無理に重整備を進めなければならないのは耐空証明が切れるから？

JLU 重整備では耐空証明が切れないように整備していかなければいけないものがあるとして、委託先から戻ってきた機体も合わせて、５月、６月も必死に整備を支えていくところ。現場からは要目の延伸はできないものか？と疑問が出ている。状況を JALEC の北田社長に聞きたい。

北田本部長 整備要目については一程度考えていて、期限を満了しないような整備方法を検討していきたいと思っている。現時点ではそうなっている。ただ、一時的に延長が認められるものがあるのも事実なので、安全性の評価をしっかりしたうえで、大丈夫だと判断できるものがあれば考えていく。今の時点では、そうならないように上手く調整しながらやっていきたい。航空局へ実際のアプローチはしていない。整備本部内で必要について検討している段階。機体整備は期限があって、要目があるのが基本。基本的には守る。例えば、C整備期間中は超えてもいい場合がある。そういう工夫をする。 通常より長い整備がある場合はいつもより丁寧に、追加の仕事がないか、安全・品質を高めるために、追加を含めて考えていく。いずれにしても、守らないといけないから無理してでも出社させるようなことはしない。やるべきことは考えて、無理はしないということを理解してほしい。

■ 整備本部のコロナ対応は遅かった。この経験を次に生かしてほしい

JLU 整備本部のコロナ対応がすごく遅かった。4月7日に緊急事態宣言が出た。現場では対応を考えて在宅勤務の案が出来ていた。9日には課長から組織の上の方にも提出している。でも実行できたのが2週間後。この2週間、現場で働いている人からは「社員の安全についてどう考えているのか！」と、コロナの恐怖感と戦いながらやってきた。センター長のメールがあったけど、内容が「生産優先」と受けとれるもので、社員の安全が二の次だと思えるようだった。「命が大事」と言った赤坂さんの気持ちが浸透していない。これを改めなければならない。今回の遅れた原因は、3センターのすり合わせが必要だったとのこと。

今回は3センターですり合わせている状況ではなかった。状況は地域によって違う。羽田は他県をまたがって通勤してくる人が多い。その状況が違うなかで、何で独自の判断ができないのかと思う。羽田の中でも、重整備、運航整備、そのなかでも国内、国際で置かれている環境が違う。それぞれ室ごとに独立した裁量を持たせてほしい。もう少し早く在宅勤務にできる課もあったはず。そうやって社員を守ることを徹底させてほしい。

裏面につづく

■ 従来通りのやり方では危ない　その場、その場の判断、実行が大事

赤坂社長 (表面の話を受け)その通りだと思った。こういう時期は現場にはローカル、ローカルで今やらねばならぬことを即座に判断して実行してほしい。僕の責任だと思うけども、従来通りの全体で調整しながらでは危ないぞという話は３月くらいにしていた。なかなかそこが浸透していなかった。申し訳ない。確かにこういう場合は、前例とか周りがどうではなく、その場で判断して実行していくことが非常に大事。これからも徹底していきたい。

JLU　別に謝罪を求めているわけではなくて、今後そうしてほしいということ。これからの復便に関してもそういうプロセスで柔軟にやってほしいと思う。

北田本部長 整備の責任として今の話、確かに、緊急事態宣言が出て状況が変わった。我々としては社員の感染防止、安心感を最優先にする方針を迅速に伝えられなかったのは私の責任であって申し訳ない。それ以降、整備体制を一週間毎に見直したりしている。引き続きスピード感を持って対応していきたい。

■　一時金、年間4ヵ月にはこだわる。「痛み」を伴うとはどういうことか？

JLU　0.1 ヵ月の期末一時金が出ることについては正直驚いた。現場では「ないよね」と言っていた人もいるなか、会社として約束は守ると言いたかったのか、機械的に出たのかわからない。この状況だから昨年度の期末一時金を保留させる判断もあったかと思う。そういう意味ではありがたいという職場の素直な意見があった。それと、会社は、一時金は最低でも 2 ヵ月＋2 ヵ月の年間 4.0 ヵ月必要と言っていたし、私たちもこだわっている。今回、コロナの対応ではいいところもあった、柔軟な自家用車通勤の許可、特定目的繰越休暇のルール変更で子供の休校にも使えるようになった。最近のコロナの状況で感じたのは、人間って不安定な生き物だということ。いろんな情報が錯綜した、世界も混乱し、誰が正しいかわからない。そういった時に普段から言っているＪＡＬフィロソフィが大事。人として何が正しいかでやっていけばいい。職場が混乱するのはコミュニケーション不足だと思う。コミュニケーションを取っていれば任せられるはず。ベクトルさえ合っていれば大丈夫。現場を信用してほしい。

乗員組合 マネナウには「他社以上に自助努力が必要であり、いわゆる「痛み」を伴う自助努力が求められる可能性がある」書いている。この「痛み」とはどういう意味か？

菊山専務 期末賞与の 0.1 ヵ月で驚いたと言われたが約束を守っただけ。痛みを伴うという部分は、資金調達については全力でやっていて、絶対にこの会社は倒れてはいけないという気持ちでやっている。ただ、借りればいいというものではなく、それは返さないといけない。返すためにどういう努力をするのかと言われる。その時に、少なくてもこの１０年の努力は間違いではなくて、きちんと金融機関は私たちの声に耳を傾けてくれる。これが、半年、さらに先へと深刻化していった時にどこまで耳を傾けてくれるか、資金調達をする以上、覚悟は必要だということを理解してほしい。

CSZ/NPZ BCP説明会

5 月 18 日に WEB 会議方式で、部品サービスセンター(CSZ)、エンジン整備センター(NPZ)から BCP(Business Continuity Plan)について説明を受けました。やり取りの一部を紹介します。

JLU：今後、しばらく停留機材は残り、部品の交換は発生しないだろう。機体整備応援、間接応援をもっと増やせないのか？

CSZ：追加で６名としているけど元々、羽田を中心に応援体制を作っていた。合計 10 名前後応援に行く。ストラクチャートラブルにスキルが必要になっている。そのスキルは、機体への応援を時限的に出している。

JLU：5 月に入ってからタイヤ枯渇のメールのやり取りがあった。運航諸元が減っているからタイヤも減らしているようなことはあるのか？

CSZ：在庫を作るのは統計的な数値を使って計算している。不足が発生したことにはおわびしたい。適宜見直してこういうことが無いようにしていきたい。

JLU：成田機能再編はどこまで進めて中断になったのか？

NPZ：リスク評価まで。21 年度から再開するけど、１年違うと全て変わってくる。コンセプトから変わるかもしれない。今まで計画したもののうち、使えるもの、使えないものの選択から始まる。

JLU：本当にこのＢＣＰが続くのかが疑問。ずいぶん古い話のように聞こえる。状況は常に変わってきているがどうなのか？

CSZ NPZ：諸元など計画を作るのは天王洲の上層部。我々はオペレーションを進めながらできることをやっていくしかない。

☆もう少し詳しい内容を知りたい方は、組合本部まで連絡ください！

【WING 489(11－13)号　2020, 05, 25】